

都市再生整備計画(第4回変更)

ちゅうしんしがいちちく
中心市街地地区

ほっかいどう だてし
北海道 伊達市

平成28年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	伊達市	地区名	中心市街地地区	面積	91 ha
-------	-----	------	-----	-----	---------	----	-------

計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

- 大目標：人々が安全・安心に暮らせ、地域コミュニティ豊かな魅力的なまちの創造
 目標1：自然災害などから地域住民の生命や財産を守るため、一時避難施設の整備を行い、安全・安心に暮らせるまちづくりを行う。
 目標2：歩道や自由通路等の歩行空間の整備により、歩行者の安全性・快適性の向上を図る。
 目標3：広場やコミュニティセンターの整備による、地域コミュニティ活動の活性化を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・本市は、北海道中央南西部、道都札幌市と函館市の中間に位置し、南は噴火湾に面し、東は室蘭市及び登別市に、北西には噴煙たなびく有珠山、昭和新山を挟んで洞爺湖町に隣接し、壮瞥町を挟んで大滝地区となっている。
- ・平成18年3月に大滝村を編入合併し、新「伊達市」が誕生し、人口37,619人となったが、昭和60年以降、ほぼ横ばいで推移している。人口動態は、周辺市町村からの流入に加え、恵まれた気候風土を反映して道内外各地から移住する人が多い一方、若年層の都市部への人口流出が続いている。
- ・中心市街地区は、本市のほぼ中間部から噴火湾沿いに南北に広がっており、市役所などの官公署や金融機関、さらに多くの商店街が集積し、本市における経済の中心的役割を担う地域である。
- ・中心市街地のなかでも、伊達駅前地区はJR伊達紋別駅や道南バスターミナルなど、交通の要衝としての役割も果たしてきた。また、早くから下水道をはじめとする住環境の整備など、人口集中地区にふさわしい居住環境づくりが進められ、幹線道路の整備や商店街の近代化などにより地域の活性化が図られてきた。しかし、商業面では相次ぐ大型店の出店や車社会の定着、生活様式の変化から生活圏が拡大しており、既存商店街になかなか活気が戻らないという現状にある。それに伴い、商店の移転・撤退が発生し、市街地の空洞化なども進んでいる。さらに、西浜町をはじめとした海岸線沿いの地域は鉄道により分断されており、災害時や緊急時の安全確保、住民の不安解消が大きな課題となっている。地域的には、より高齢化が進み、独居老人対策や介護支援体制など地域福祉の充実が求められており、自治会の活性化など地域活動の充実を図る必要がある。
- ・このような状況の中で、伊達市都市計画マスタープラン(平成16年4月策定)では、JR伊達紋別駅前地区などの中心商業地としての再構築やまちなか居住の推進、道路の整備にあわせた良好な住環境の確保に努め、特色あるまちづくりを進めるとしている。
- ・本市の第六次総合計画(平成21年3月策定)でも、中心市街地内の伊達紋別駅周辺地区の商業機能の再構築、公的住宅整備やケア付き安心ハウスによるまちなか居住の推進、鉄道分断による山下町と西浜町とのスムーズな交通アクセスの確保、気門別川の河川改修整備による親水機能の向上と自然環境の保全など住環境・交通・産業・観光・福祉等の整備改善の位置づけがなされている。

課題

- 安全・安心・快適に暮らせるまちづくりの実現を目指すためには、災害時の一時避難施設とバリアフリー化された自由通路の整備、地域コミュニティの活性化が急務とされている。
- 西浜地区の浸水災害時の一時避難施設の確保が急務である。
- 高齢者にも安全に歩行できる歩道の確保と、夜間でも安心して歩ける明るい歩道整備が求められているとともに、狭小で老朽化した鉄道横断跨線橋のバリアフリー化された自由通路への架け替えが求められている。
- 地域のコミュニティの核となるコミュニティセンターの整備が急務とされている。

将来ビジョン(中長期)

- ・第六次伊達市総合計画では、中心市街地地区は「人、自然、みちがつながり、にぎわいのあるまち」を目指し、高齢化や空洞化が進行する中心市街地においてまちなか居住の推進や地域のさまざまな交流拠点施設の整備、不足している市街地内の緑を確保するための公園・広場の整備、バリアフリー化など歩行者の安全性を高める道路整備を図ると地区としている。
- ・伊達市都市計画マスタープランにおいては、土地利用では西胆振の中心商業地として大きな役割を担う地域として位置づけ、合わせてまちなか居住も推進し賑わいのある地域を目指すとしている。また、都市施設として交通結節点機能を強化するとともに鉄道で分断する東西の地区の交通動線の確保や街路等の整備による安全で快適な交通網の促進、市街地内の緑地の確保のため河川整備や公園広場の整備、街路樹や公共施設の緑化を図るとしている。

目標を定量化する指標

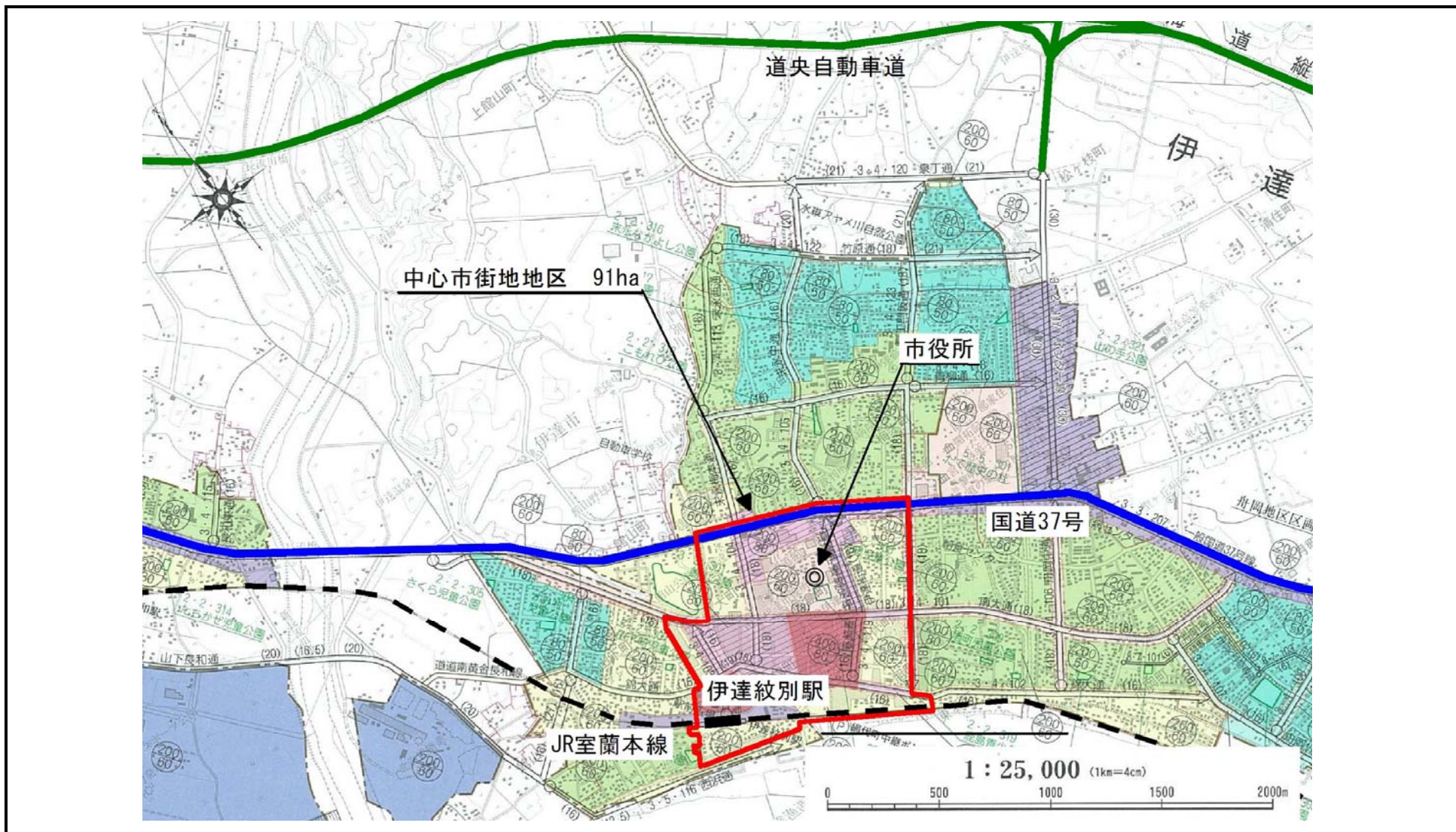
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	目標年度
災害対策への満足度	%	避難場所の確保など災害に対する取り組みについての満足度	51.7	平成19年度	60	平成28年度
自由通路利用者数	人/日	歩行者の通行量	479	平成20年度	500	平成28年度
まちづくり会合数の増	回/年	まちづくり・コミュニティ活動などの会合数	163	平成22年度	200	平成28年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(一時避難施設の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> 西浜地区の浸水災害等の自然災害に備え、一時避難施設の整備を図り、災害に強い安心して暮らせるまちづくりを図る。 	<p>道路(基幹事業:伊達紋別天望線の整備) 道路(基幹事業:北星東線の整備) 高次都市施設(基幹事業:駅南集会所の整備)</p>
<p>整備方針2(歩行者の安全性・快適性の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 老朽化し狭小な跨線橋に替わり、伊達紋別駅隣接地に自由通路として快適で利便性の高い歩行者空間を整備することにより、地域格差を解消する。 駅前広場の歩道のバリアフリー化や停車場線の歩道の街路灯増設等のグレードアップにより、安全で快適な歩行者空間が形成される。 	<p>道路(基幹事業:駅前1号線歩道のバリアフリー化改良) 道路(基幹事業:伊達紋別天望線の整備) 道路(基幹事業:北星東線の整備) 高質空間形成施設(基幹事業:停車場通歩道部のグレードアップ) 地域創造支援事業(提案事業:JR跨線橋の解体)</p> <p>関連事業(停車場通整備事業)</p>
<p>整備方針3(地域コミュニティの活性化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 集会所やコミュニティセンターを整備し、地域コミュニティの場の創出と活性化を図る。 	<p>高次都市施設(基幹事業:駅南集会所の整備) 高次都市施設(基幹事業:地域交流センターの整備)</p> <p>関連事業(地域住宅交付金:伊達市公営住宅駅前団地(C地区)買取事業) 関連事業(地域住宅交付金:伊達市公営住宅駅前団地(AB地区)買取事業) 関連事業(伊達駅前AB地区市街地再開発事業) 関連事業(伊達紋別駅連絡通路整備事業)</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業終了後の継続的なまちづくり活動について ・事業効果の検証及び事後評価を行い、今後のまちづくりに反映させる。 ・事後評価の達成度については、市広報・市ホームページなどで住民に周知し、その成果を活用する。 	

都市再生整備計画の区域

<p>中心市街地地区(北海道 伊達市)</p>	<p>面積 91 ha</p>	<p>区域 西浜町・山下町・旭町・末永町・元町の一部、錦町、大町、網代町、鹿島町</p>
-------------------------	-----------------	--



中心市街地地区(北海道伊達市) 整備方針概要図

目標	大目標:人々が安全・安心に暮らせ、地域コミュニティ豊かな魅力的なまちの創造	代表的な指標	災害対策への満足度 (%)	51.7 (H19年度) → 60 (H28年度)
			自由通路利用者数 (人/日)	479 (H20年度) → 500 (H28年度)
			まちづくり会合数の増 (回/年)	163 (H22年度) → 200 (H28年度)

